

## 【巻頭言】

立教大学日本学研究所は、二〇〇〇年四月の設立以来、総合大学である本学の特徴を生かし、本学に関するあらゆる分野の研究を進展させるとともに、国内、国外の日本学研究を促進し、学術交流の実現に寄与することを目的として設立され、活動しています。

本号には、鈴木彰所員を中心にして国際的な学術交流の場として昨年度開催された「第5回東アジア文化権力研究学術フォーラム 伝統と正統性、その創造と統制・隠滅」・「日本と東アジアの〈異文化交流文学史〉」、佐藤を中心にして歴史学と歴史教育の対話の場として開催された「はじめての日本史探究・歴史教育と歴史学の幸せな関係を求めて」のプログラムを掲載しました。本研究所では例年、立教大学への留学生の研究発表・交流の場として研究例会「海外の日本文化研究―その動向と可能性」を開催していましたが、昨年度はパンデミックのために開催できず、そもそも留学生の受け入れ自体が難しい状況がありました。そうした苦境にあっても国際的な日本学のネットワークを維持・発展するため、本研究所は活動を続けてきました。本誌には研究員による論文五本・資料紹介二本・書評一本を掲載しています。

本研究所の目的達成のため、今後も多彩なシンポジウム、研究例会を企画し、本誌の更なる充実を目指してまいります。一層のご支援をお願いいたします。

二〇二三年九月

立教大学日本学研究所 所長 佐藤雄基